



# 立入が丘小学校だより



No. 4

## 学校での環境保護・ボランティア活動

1学期も最終月に入り、各学年、1学期のまとめに向けた様々な学習を行っています。4年生では、社会科でのごみ処理の学習で、4Rについて学んでいます。4Rとは、「リフューズ(Refuse)」「リデュース(Reduce)」「リユース(Reuse)」「リサイクル(Recycle)」の総称で、できる限りゴミをなくして地球環境にやさしい生活をしようという取組です。

環境問題への取組として学校では、以前から空き缶のプルタブ回収とペットボトルキャップ回収を行っています。これらは、車椅子寄贈や世界の子どもたちのワクチン接種にも繋がります。保健室前に回収ボックスを設置して、子どもたちが家庭で集めたプルタブやペットボトルキャップを入れています。私自身、以前からごみの散乱を防止するための取組としては認知していましたが、しかし、プルタブに関して言えば、私が子どもの頃は開栓時に容器(缶)からプルタブが分離されるため、ポイ捨てされるケースが多く、環境や動物への被害が問題となっていたのを知っていました。しかし、その後、プルタブは開栓後も缶についたままの構造に改良され、解決したものと思っていました。にもかかわらず、今でもプルタブ回収が行われていることに、「これは都市伝説か？」と疑問をもっていた頃もあったので、仕組みについて調べてみました。



空き缶にはアルミ缶とスチール缶があり、再利用のために分別されて、運搬しやすいようにプレスされます。スチール缶はそのまま炉に投入されるそうですが、アルミ缶は不純物や水分を取り除く(水蒸気爆発を防ぐ)ために再びばらされるそうです。そのときにプルタブが外れることがあり、搬送ラインが詰まる原因にもなり、選別ラインではアルミの材質の違いもあってごみとして処理されています。アルミ缶のリサイクル工場では迷惑な存在となっているそうです。しかし、プルタブのアルミは胴部分に使われるアルミと比べ、より強度が求められる船舶や自動車に使われるアルミ素材となります。また、スチール缶も蓋にはアルミが使われていて、プルタブもアルミ缶の物と同じだということです(スチール再生のために炉に入れるとアルミの部分は燃えてなくなるそうです)。

このようにリサイクル過程が理解できると、プルタブ回収は資源の再利用に役立つ活動だということが分かります。アルミ缶の胴部部が中強度合金なのに対して、プルタブが高強度合金であること、スチール缶であっても蓋部分はアルミ缶と同じであることを考えれば、意味のあることをしているのだと納得します。回収されたプルタブから、直接、車いすが作られるわけではありませんが、資源の分別回収に協力し、車椅子寄贈という人の役に立つ事にも貢献していることに大きな意義を感じます。学校 HP のトピックスでも紹介しましたが、子どもたちはプルタブ回収に家族や親せきにも協力を呼び掛けて地道に取り組んでいます。直近3か月では 2.975 kgのプルタブ回収ができました。持続可能な社会を目指して、「小さなことからコツコツと」続けることを大切にしたいと思います。

### Necol メール配信について(ご登録の確認)

学校からのメール配信は、全校一斉配信と学年別配信があります。本校に2人以上在籍の場合、それぞれでのご登録をお願いします。